

本時の位置	6 / 14	評価規準	<見方・考え方><表現・処理>
本時のねらい	2位数×1位数で部分積が十の位と百の位に繰り上がる乗法を考える場面で、数玉を利用したり、被乗数を分解し考えたりすることを通して、計算のしかたを考え、ひっ算で正確に計算することができる。	・2位数×1位数で部分積が十の位と百の位に繰り上がる計算原理を考える (見方・考え方) ・ひっ算で計算できる (表現・処理)	

段階	主な学習活動	個のつまずきに応じた指導・援助
問題	1, 問題提示をする 72×6の計算を考えよう	・前時の掲示から本時との違いを考えさせる ・子どもの言葉で課題を提示する
問題把握	2, 課題を見つける ・今日の問題は昨日の問題と何が違うのでしょうか。今日の課題は、何になるのでしょうか。 ・くり上がりがある。 ・くり上がりは2回ある。	・子どもの言葉で課題を提示する C1 数玉で考えるが、やり方がわからない C2 被乗数を分けて考えることができない <ヒントカード1>を使って考える <ヒントカード2>を使って考える
課題	3, 課題提示 くり上がりがある計算のしかたを考えよう	
追求	何を手立て (何を使って) に考えますか ・数玉・分解式・筆算で考えたい。	
交流	4, 個人追求 ・数玉で考える ・被乗数を分けて考える ・ひっ算で考える 何の段の九九を使うのかな 5, グループ交流 6の段 ・同じ手立てで取り組んだ友達と考えを交流することで自分の考えに自信を持つ 6, 全体交流 1. 数玉で考える ・72 が6倍ある ⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 1倍 ⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 2倍 ⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 3倍 ⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 4倍 ⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 5倍 ⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 6倍 ⑩は42こで420 ①は12こ 全部では 420+12=432 答え432 ⑩は10のまとまりで100 100は4になる ①は12で⑩が1と①が2になる この時の100と⑩に変わったものがくり上がり 2. 被乗数を分けて考える 72は2と70 (分解式) 72は 2×6= 12 70×6=420 20+12=432 答え432 数玉も分解式も答えは同じ。 3. ひっ算で考える (ひっ算) 72 72 × 6 → × 6 12 432 420 432 ・「はかせどん」ではひっ算 (小さいくり上がりを書く方式)が速い。やり方を教える。	・自分の考えが持てた (書けた、操作できた) 児童は、同じ方法の児童と交流する C3 ひっ算でやるが、やり方がわからない <ヒントカード3>を使って考える
まとめ	7, まとめ ・本時のまとめをする	
評価	・ひっ算のやり方を教師と一緒に全員で確認する	
力試し	8, 評価問題を行う ・①72×7 ②35×4を解く	
振り返り	9, 振り返りをする ・自己評価カードで本時の振り返りをする	

⑩⑩⑩⑩⑩⑩ ①① 72×1
72×2
72×3
72×4
72×5
72×6

<ヒントカード2>
かけられる数 72を分けて考えてみよう
□
72 □

百	+	-
×		

ますにきちんと入れよう。
はじめに、どこからかけるのだったかな？

百	+	-
×		

くり上がりを忘れない工夫として、小さくくり上がった数を書く

- ・全体交流の発表のため用紙に考えを書かせる。
- ・ひっ算では、6×2=12の十にくり上がった1を十の位に小さく書く。
- ・6×7=42の百の位にくり上がった4は大きく書き、十の位の2に1を加えて3と書く。
- ・答えは、432となる。

百	+	-
	7	2
×		6
4	3	2

- やり方
- ① 位をそろえて書く
 - ② かける数の6と72の一の位の2をかけ算します
 - ③ くり上がりの口を十の位に書きます
 - ④ 次にかける数の6を十の位の7にかけます
 - ⑤ くり上がりの口を百の位に書きます
 - ⑥ だから答えは□です

まとめ：くり上がりがある計算も一の位と十の位を別々に考えて今までの計算と同じようにできる。くり上がった数は小さく書く。くり上がった数を忘れずにたす。

- ・評価問題をプリント (マス入り) で渡す。
- ・見届けを教師が行い、筆算がきちんとできているか確認する。
- ・C4つ算ができていない児童には個別指導する。
- ・「自分の考えが持てたか」「ひっ算のやり方がわかったか」を自己評価する。
- ・学習の感想、仲間の「かがやき」の紹介をする。